

Escort

エスコート

January
2024

第3号

CONTENTS/目次

- P.1 ▶ 特集：きらりNICEな企業 株式会社マイクロコントロールシステムズ
- P.3 ▶ 「信州フードテック」転換支援事業の紹介
- P.4 ▶ TOPICS：事業者様の取り組みをサポートした8事業の紹介
- P.8 ▶ コラム：「DXのすすめ」シリーズ3
- P.9 ▶ News: イベント・セミナーのご案内
- P.10 ▶ News: 事業紹介

世の中にない価値創造への挑戦

マイクロコントロールシステムズ株式会社

業種：電子機器の製造、LED照明装置の開発・製造・販売、電子部品、モジュールの開発・製造・販売等

特徴：研究開発型製造業を目指す

設立：2000年（平成12年）6月1日

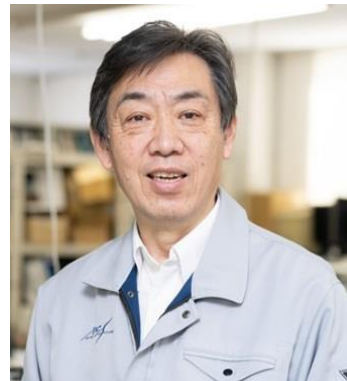
資本金：3,000万円

所在地：佐久市下越143

代表取締役：羽柴 壮一氏

従業員：34名

<https://www.micro-control.co.jp/>



羽柴社長様から取組についてお話を伺いました。

エコ環境社会の実現に貢献する製品を

マイクロコントロールシステムズ株式会社（羽柴壮一社長／佐久市）は電子機器製造を事業とする。東京の上場企業で技術者を務めていた羽柴社長が、「自分で決めて自分で責任を取る仕事がしたい。」との思いから、2000年6月に起業した。

当初は半導体リレーや電話回線保安器などの請負製造を行い、自社設計製品としてガス燃料制御基板、LANデータ収集基板等も手がけてきた。しかし、2008年のリーマンショックで多くの受注を失ってしまう。「どうせ赤字になるなら前向きにお金を使った方がいい。」と社長は自社製品の開発に乗り出す。リスクは承知の上だ。ただ勝算があった。デフレでも必要とされるものは何か。そう問い、環境・エネルギー・医療の3分野で可能性を探った。自社の規模や現在の技術力で挑戦できるのは環境だろう。狙いを定めたのがLED照明だった。

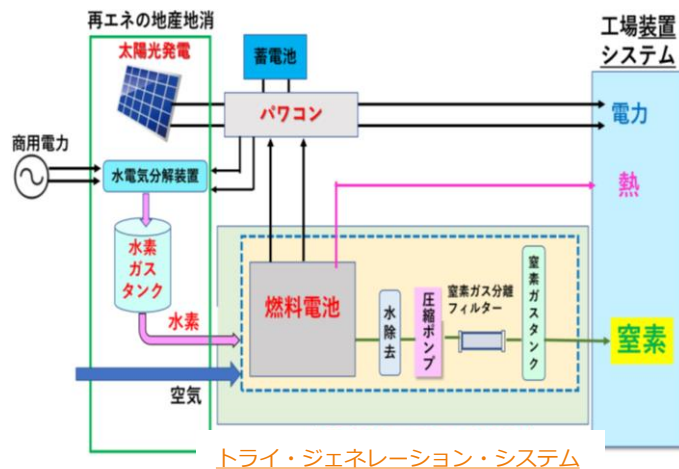
タイマー自動消灯付き自動車用LEDルームランプを皮切りに、工業用LED照明装置（CE認証取得）、地下通信インフラ向け照明装置、大型駐車場照明灯等を製品化。今、佐久市市民創錬センターの6,000㎡に及ぶ駐車場を照らすのは、同社の太陽光発電型街灯（ソラミール）である。

同社は会社の基本理念にこう掲げる。「人々が暮らしやすいエコ環境社会の実現に貢献する製品を提供する。」



燃料電池を用いたゼロカーボン窒素生成

基本理念に基づき、LED照明に続く次の事業フィールドを探る過程で、羽柴社長は2つの縁に与る。まず、ものづくりのグローバル企業で長年技術者をしてきた田上勝通さんを特別顧問（現在、研究室室長）として迎えたこと。そして、長野県テクノ財団善光寺バレー地域センター（現在、長野県産業振興機構長野センター）の講演会に参加し、燃料電池に関わるあるアイデアを着想したことだった。



水素と空気中の酸素の化学反応で電力と熱を生み出す燃料電池は、排ガスを出し、その90%以上が窒素である。この窒素を有効活用することはできないか。高濃度窒素ガスは、電機・電子、窒化物製造、窒化処理、食品加工、食品保管、倉庫など、さまざまな市場で膨大な需要があるが、高価である。一方、燃料電池は水素の購入費用に対し、生み出される電力と熱の利得が小さいために生産現場で普及していない。もし燃料電池から高濃度窒素を回収できれば、燃料電池を購入した企業は電力、熱、窒素の3つを得ることができ、圧倒的な利得がある。ゼロカーボンに貢献でき、エネルギーの利用効率も上がる。

これがどれほど優れたアイデアでも、誰もやったことのないチャレンジに大手企業は手をつけ難い。事業の成否に慎重になり過ぎるからである。自分たちに燃料電池について知見はなかったが、失うものへの覚悟がある。理念実現のための信念がある。成功に導くために必要なものは多くない。リスクテイカーになれる経営者の存在がひとつ、パッションを持った技術者の存在がもうひとつ。

いち早く事業化するために支援を得て

未踏の挑戦の際、中小企業に欠かせないものがもうひとつある。アイデアをいち早く事業化するための時間を買うことだ。燃料電池から窒素が排出されることは誰もが知っている。世界の誰かに先んじられてはならない。

2011年から文献、特許調査を開始し、翌2012年5月に特許を出願、基本特許5件を取得した。窒素ガス+電力+熱の同時生成システムの実用化へのチャレンジが始まった。展示会調査を経て、基本実証を開始できたのが2017年からだった。佐久市ものづくり支援事業補助金から資金を得て開発はスピードアップする。しかし、排ガスの処理がうまくいかない。処理方式を改めたうえ、2019年からは山梨大学教授で水素・燃料電池ナノ材料研究センター長の飯山明裕氏に指導を仰いだ。さらに、事業再構築補助金の対象となり、建屋と大型設備を導入したことで、実証は次の段階へ進んだ。



ゼロカーボン技術事業化支援事業 試作システム

2022年には長野県産業振興機構（以下「機構」という。）のゼロカーボン技術事業化支援事業に採択され、7月より製品レベルの部材を使った実証実験が始まった。そして2023年8月、経済産業省の令和5年度成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）に採択され、製品化に向け注力している。

「孤立無援の開発過程に不安はつき物です。機構をはじめさまざまな機関による補助、支援は本当に心強かった。」と羽柴社長は振り返る。今後、同システムは自社や

他工場での試験的な導入を経て2025年中に市場投入される。

今後ビジネスモデルを構築するために

マイクロコントロールシステムズ株式会社は、窒素ガス+電力+熱の同時生成システムのブランド名と取り扱う別会社の名を「TRINEXT（トライネクスト）」と定めた。新会社の売上高は現在の同社の20倍以上となる80億円を目指す。

目標を達成するには、開発過程とは別種の人材が必要になる。事業モデルを築くセンスのある人が要る。法務のエキスパートも入れたい。新会社立ち上げを前に、「こうした人材の確保・育成についても、機構の支援をお願いしたい。」と羽柴社長は話す。他にも「燃料電池に用いる水素が安く入手できる仕組みづくり、当社システムを導入する企業への補助等で知恵をいただけたらありがたい。」とも。

同社は、2022年9月に機構、山梨大学、佐久産業支援センターの3者で発足した工業用燃料電池システム研究会にも主要メンバーとして参画している。メンバーが情報共有し新しい価値の種を見出す貴重な機会であるからこそ、「より多くの事例を学べるよう一層の充実に期待したい。」と語る。

こうした要望は、自社だけのことを思い発したものではない。環境をはじめ社会課題の解決に向けて佐久平を中心にもものづくり企業が共存共栄を図る「パックス・アサマーナ※」こそが羽柴社長の夢である。

※パックス・アサマーナ：パックス・ローマーナの造語。

パックス・ローマーナは、「ローマの平和」という意。

ローマ帝国内において、異民族の侵入もなく、治安が確立しており、交通や物資の交流が盛んで、帝国内の各都市が繁栄し約200年間続いた平和を意味する。

活用した支援制度等

- [ゼロカーボン技術事業化支援事業](#) <長野県・機構>
- [工業用燃料電池システム研究会](#) <機構>
- [成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）](#)（旧サポイン） <経済産業省・機構>
- [佐久市ものづくり支援事業補助金](#) <佐久市>

◆お問い合わせ

グリーンイノベーション推進部

TEL：026-217-1634 FAX：026-226-8838

E-mail：green-innv[at]nice-o.or.jp

- [受注・取引支援事業](#)

◆お問い合わせ

マーケティング支援部

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867

E-mail：matching[at]nice-o.or.jp

「信州フードテック」転換支援事業

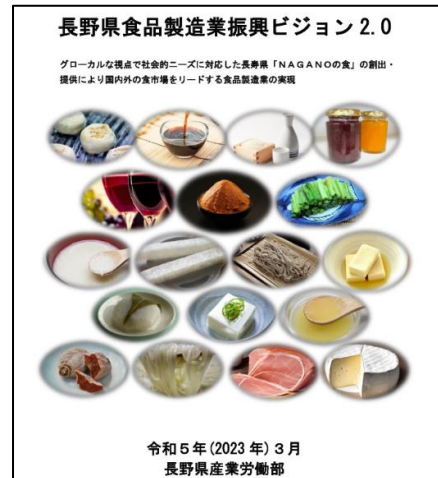
フードテックの取組をサポートします！

長野県では、令和5年3月に「[長野県食品製造業振興ビジョン2.0](#)（以下「ビジョン」という。）」を策定し、フードテックを活用した消費者、社会ニーズに沿った製品開発の強化を図っていくこととしています。

当機構でも、ビジョンに基づき、長野県食品製造業における健康志向や社会持続性などの消費者、社会ニーズに沿った商品開発力の強化を目指し、[長野県工業技術総合センター食品技術部門](#)（しあわせ信州食品開発センター）や大学等と連携し、フードテックを活用した新たな食品開発への支援事業を開始しました。

初年度となる令和5年度は、フードテックに関連する技術動向や市場ニーズの情報収集を行うとともに、県内企業におけるフードテックを活用した新たな食品開発を推進するため、県内食品産業に精通し、専門的な知識を有するフードテックプロジェクトマネージャーを配置しました。

また、県内企業の参画のもとに、「[信州発酵フードテック研究会](#)」と「[信州食品産業資源有効活用研究会](#)」の2つ研究会を設置し、研究会の中で、フードテック関連のセミナーの開催や、フードテックを活用した商品開発プロジェクトの組成に向けて、フードテックに取り組む企業への相談対応や支援を行っています。



[ビジョン \(本文\)](#)

(〔出展〕長野県HP)



研究会の様子

令和5年7月に発足した「信州発酵フードテック研究会」では、長野県の発酵食品製造業が有する発酵技術を活用し、その発展や他の技術との融合によって、健康、環境、食糧、安全、食の多様化等の社会課題の解決を図り、高付加価値な商品開発を目指しています。

1回目のセミナー（キックオフ）を7月25日に、2回目を10月4日にそれぞれ長野市内で開催し、延べ67名が参加しました。

令和5年11月に発足した「信州食品産業資源有効活用研究会」では、消費者の社会課題や環境への意識が高まる中、SDGsの実現や、食糧問題、気候変動等に対する課題解決に向けて、食品関連産業における低・未利用資源、食品ロス、食品廃棄物という課題に対して、有効活用、アップサイクル、高付加価値化という視点から技術開発や商品開発等を行うことで、長野県の資源循環型産業の構築及び食品関連産業の持続的な発展を目指しています。キックオフとなるセミナーを11月30日に松本市内で開催し、松本地域を中心に41名が参加しました。

両研究会では、いずれも企業・大学・研究機関・産業支援機関等が集結、連携して商品開発プロジェクトや市場価値の向上等を推進してまいります。

各研究会にご興味ございましたら、ご参加いただくか、電話や電子メールでのお問合せをお待ちしています。

さらに、当機構では、関東経済産業局が設置した「フードテックコミュニティ」にも参画しています。

このコミュニティは、管内に特色ある食品関連産業が立地する強みを活かし、エリア・業界・業種を問わず食に関心を持つプレイヤーが集まり、国内外の食の社会的課題の促進や地域発の新しい製品・サービスの発信に向けたきっかけを作る場として立ち上げたもので、このコミュニティへの参画を通じ、関東経済産業局をはじめ関係機関との連携を図りつつ、モデルケースなどの情報収集や商品開発プロジェクト組成へのアイデアを探り、信州型フードテックの推進に繋げてまいります。

ご相談・
お問い合わせ



次世代産業部 担当：フードテックプロジェクトマネージャー 大澤、主任 水内
TEL：026-217-1634 E-mail：shinsangyo[at]nice-o.or.jp

1 「ものづくり産業からサーキュラーエコノミーを考えるシンポジウム in NAGANO」を開催

グリーンイノベーション推進部（グリーンイノベーションセンター）

グリーンイノベーションセンターが運営する「地域資源循環型複合材料研究会」の活動を基盤として、産産連携及び産学官連携の強化と県民への周知を目的とした「ものづくり産業からサーキュラーエコノミー（CE）を考えるシンポジウム in NAGANO」を長野県との共催により、令和5年12月20日に長野市で開催しました。このシンポジウムには、県内外から127名が参加し、経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課の田中課長より、成長志向型の資源自立経済戦略と今後の資源循環経済政策等について、ご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、「CEを事業として実現していくためにはどうすればよいのか」という議題について、県内企業等からCEの先進的な取組をご発表いただき、田中課長及び阿部知事と意見交換を行いました。

また、当該研究会の会員企業や信州大学、長野県工業技術総合センター、金沢工業大学、北陸先端技術大学院大学等のCEの取組事例12件を会場内に展示しました。



パネルディスカッションの様子



展示の様子

地域資源循環型複合材料研究会の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/case/case-34103/>



お問い合わせ 担当：北沢

TEL：026-217-1634 FAX：026-226-8838 E-mail：green-innv [at] nice-o.or.jp

2 「ロボット技術と未来社会」経営戦略セミナーを開催

マーケティング支援部

「共創」による新産業創出をテーマに千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長の古田貴之氏を迎え、講演及び参加者とのディスカッションを令和5年12月13日に長野市で開催しました。県内企業、支援機関等から60名が参加され、参加者の95%が今後の事業に「大変役に立った」と回答され、第2弾を要望する参加者も多く、好評を得られました。

講演では、「大切なのは目的と手段を取り違えないようにすること、研究の目的は世の中をどう元気にするか、いかに人々の生活の質を上げていくか、そのために生き生きとしたサービスをどう展開するかであって、ロボットはあくまでもツールである。」「エンジニアがよく陥るワナとして、ツールの開発が目的になってしまうことがあり、本来の目的を達成するには理想の社会の設計図を描く必要がある。」など示唆に富んだお話がありました。

参加者からは、「ロボットやAI技術が思っている以上に進化している。」として、「これをどうやって事業化するか、世に役立たせるかがとても重要で、それには個々の技術だけでなく社会モノゴト作りの価値、環境の整備も必要であり、共創による新産業の創出が求められている事を学びました。」といった感想が聞かれました。

また、古田先生は県内のモーター技術等にも関心をお持ちで、千葉工業大学と県内企業の産学連携を推進する契機にもなることが期待されます。

経営戦略セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/keieisemi-2023/>



お問い合わせ 担当：山岸

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867 E-mail：matching [at] nice-o.or.jp



セミナー会場の様子



次世代モビリティ CanguRo

3 「欧州自動車ビジネスを学ぶグローバルセミナー」を開催

マーケティング支援部

EV化が加速する欧州自動車の市場動向と次世代自動車へのビジネスチャンスを探るため、「牽引する欧州EV戦略と市場への参入を探る！」をテーマに、令和5年10月24日、ハイブリッド形式でのセミナーを岡谷市で開催しました。

第一部では、コンサルティング会社株式会社IBLCからWEBデータ等を基に欧州自動車メーカーの動向と戦略、欧州の環境規制、第二部では、EV関連の欧州ビジネスに精通している兼松株式会社から参入にあたっての留意点とビジネスチャンス、第三部では、JETRO長野から海外ビジネスを進める上での留意点を紹介いただきました。

県内企業から会場及びオンライン併せて合計97名が参加され、参加者の98%が「役立つ」セミナーとの好評を得られました。終了後の参加者アンケートでは、「欧州の次世代自動車ビジネスへの販路開拓を行いたい。」と回答した企業が数多くあり、欧州への輸出はハードルが高いと考えられている中で、具体的なビジネス参入ポイントの説明が参考になったのではと思われます。

来年度も当機構では欧州自動車市場への販路開拓支援のため、ドイツでの展示会への出展を計画しています。



セミナー会場の様子

セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-43946/>



お問い合わせ 担当：近藤

TEL：026-227-5013 FAX：026-228-2867 E-mail：kokusai [at] nice-o.or.jp

4 「エアロマート名古屋2023」で有望商談を展開

次世代産業部（航空機産業支援センター）

愛知県名古屋市で開催された航空機産業の展示商談会「エアロマート名古屋2023」（会期：令和5年9月27日～28日）に長野県との共同で「Aerospace Cluster Net Naganoブース」を開設しました。ブースには県内企業・団体3者が出展し、製品や技術力をアピールするとともに、海外航空機メーカーをはじめ、国内企業各社との商談が行われました。

「エアロマート名古屋」は海外での航空機に限らず産業界各分野においてグローバルなB2Bマッチングイベントを開催しているBCIエアロスペース（フランス）が主催しており、海外企業42社、国内企業198社、総勢240社が参加し、B2Bマッチングシステムにて計画された商談スケジュールに従い、具体的に実現性の高い商談が展開されました。支援した県内企業団体3者のブースにも海外・国内企業が途切れることなく訪れ、活発な商談が展開されました。



・ [エアロスペース飯田](#)



・ [多摩川精機株式会社](#)



・ [ゴコー電工株式会社](#)

NAGANO航空宇宙産業クラスターネットのページはこちらから

<https://acn-nagano.jp/>



お問い合わせ 担当：木下

TEL：0265-49-8047 FAX：0265-49-8048 E-mail：aerospace [at] nice-o.or.jp

5 生成AI「ChatGPT」の活用セミナーを開催

企画連携部

当機構が事務局を務める「ながの産業支援ネット」では、中小企業の各種相談や支援要請に対し、より効果的かつ効率的な課題解決を図るため、ワンストップサービス機能の向上を目指して県内の支援機関の連携強化に取り組んでいます。

その中で、産業支援機関職員の支援スキルの向上を目的として、今、話題の人工知能技術である「ChatGPT」の活用に焦点を当て、令和5年9月14日にセミナーを開催しました。なお、今回は多くの県内企業の方から参加希望が寄せられたため、企業関係者に対象を拡大しての開催となりました。

このセミナーでは、全国各地でChatGPTの活用をテーマに講師として登壇している、ソフィアブレイン代表の小宮山真吾氏をお招きし、初心者でも理解しやすいように、デモンストレーションを交えながら実践的な活用方法を講演いただきました。

会場とオンラインのハイブリッド形式で開催したところ、合計256名の方が参加され、多くの方から「ChatGPTの活用に対する具体的なアイデアや洞察が得られた」と好評を得られました。

本セミナーを通じて、地域企業の皆様に、より質の高いサポートを提供する一歩となるとともに、新たなアイデアや視点が生まれ、地域全体の成長に繋がることを期待しています。



セミナーの様子

ながの産業支援ネットの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-2687/>



セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/siennetskillup2023/>



お問い合わせ 担当：青木

TEL：026-227-5803 FAX：026-226-8838 E-mail：renkei [at] nice-o.or.jp

6 「次世代若手経営者交流フォーラム」をコラボ企画で開催

上田センター

次世代若手経営者交流フォーラムは、自社の強みを活かして新たなビジネスにチャレンジしたいと思っている東信地区を中心とする若手経営者の集まりで、令和5年6月30日、12名のメンバーが集まりスタートしました。アドバイザーに、プラスシーエー代表の鍋田知宏氏を迎え、新たなビジネスを生み出すためのノウハウを学ぶと共に、企業発表等の交流を通じて、自社の取組に活かす機会として、今後の活動が期待されています。

2回目となる9月7日のフォーラムは、東御市商工会が運営する創業支援企業の「コワーキングスペースえべや」と、東御市に移住し、新たなビジネスをスタートされた6名のメンバーとのコラボ企画として開催され、コミュニティーマネージャーの白井美和氏をファシリテーターとして、参加者から強みや自慢の企画などを紹介し合った後は、参加者が自然に集って活発な交流が行われました。

若手経営者にとって、民泊経営者や東御市地域おこし協力隊のメンバー、食を提供する方などとのコラボは、視野の広がりを見せ、自社製品を民泊で活用できないか、自社をもっと知ってもらうためのアイデア交換など、非常に奮起する会となりました。

今後も、メンバー以外のゲストも迎え、交流の場を広げていきたいと考えています。



メンバーがコラボを模索しながら交流中

次世代若手経営者交流フォーラムのページはこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/support/support-37620/>



お問い合わせ 担当：遠藤

TEL：0268-23-6788 FAX：0268-23-6673 E-mail：nice-ueda [at] nice-o.or.jp

7 アジア最大級の「FOOD TAIPEI 2023」を出展支援 マーケティング支援部

台湾で開催されたアジア最大級の国際食品展示会「[FOOD TAIPEI 2023](#)」（会期：令和5年6月14日～17日）に、2019年の初出展以来、4年ぶり2回目の長野県ブースを設置し、食のグローバル展開推進員が現地で出展支援を行いました。出展企業数1,000社、来場者数47,000人の大規模展示会であり、長野県からはドレッシング、わさび、冷凍麺、トマトケチャップ等の食品製造業4社が出展しました。

会期中には現地の小売店、卸商社、テレビショッピング、飲食店、百貨店等の担当バイヤーが多数長野県ブースを訪れ、活発な商談が行われ、日本の食品に対する関心の高さがうかがえました。また、長野県ブース出展者と日本からの他の出展者との間でも商談が行われ、成約の報告が複数ありました。

長野県出展企業は会期中の商談件数95件、成約見込みの案件も多数あり、4社とも今回出展して良かったとの反応で、台湾市場での販路拡大に確かな手ごたえを感じることができました。

FOOD TAIPEI 2023 長野県出展企業情報の詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/wp-content/uploads/2023/11/taipei-1.pdf>



長野県ブースの様子

お問い合わせ 担当：水澤

TEL：026-235-7246 FAX：026-235-7387 E-mail：hanro [at] nice-o.or.jp

8 「3D金属積層造形技術の最新動向セミナー」を開催 長野センター

3D金属積層造形技術は、県内の金属加工を得意とする企業にとって、従来技術の延長線上では困難とされていた「一体化」「軽量化」「中空化」が実現可能な工法として、金属3Dプリンタをいかに使いこなすかのノウハウを習得できれば、これまでにない斬新な高付加価値製品、部品を生み出すチャンスになると期待されています。そこで、令和5年7月13日に、3D金属積層造形技術の最新動向を紹介するセミナーを開催しました。

セミナーでは、長野県工業技術総合センター、さかき金属3Dプリンタ研究会、信州AM研究会から、マイクロ水力発電装置の水車翼の事例紹介をはじめ、第一人者である近畿大学の京極秀樹先生からは、医療機器の最新の事例や欠陥発生予測の研究内容等を、惜しみなくご提供いただきました。また、講演後に交流会を開催したところ、原料の製法などの困りごとや持参した試作品について、京極先生から直接アドバイスをいただく良い機会となりました。

今後も、長野県工業技術総合センターと連携し、先進研究機関や、先行する欧州、中国等の金属造形技術に関する最新の応用事例や研究内容の情報を提供してまいります。

セミナーの詳細はこちらから

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-40345/>



セミナーの様子

お問い合わせ 担当：市村

TEL：026-225-6650 FAX：026-225-6711 E-mail：nice-nagano [at] nice-o.or.jp

DXのすすめ

シリーズ 3

ITバレー推進部 産業DXコーディネーター 西村 元男

情報処理安全確保支援士・IoTプロフェッショナル・マイクロソフト認定技術者、安曇野市 スマート自治体推進アドバイザー、[デジタルデマンド株式会社](#) 代表取締役

このコラムでは、DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは何か、メリットや進め方等を複数回に分けてご紹介しています。創刊号のシリーズ1では主に「DXの考え方（フレームワーク）」について解説し、第2号のシリーズ2では、さらに一步踏み込んで「DXの考え方に基づいた長野県内のある企業の事例分析」と「DXで取り組む施策の典型的な3パターン」等についてご紹介しました。

今回は、他の企業等の取組状況から、自社の参考にするにはどうしたら良いか、その方法の一例をご説明します。

まず、他の企業等のDXの取組状況は、一般に公開されていることをご存じでしょうか。国は、DXに取り組んでいる企業等を認定する「DX認定制度」を設け、認定を受けた企業等の取組状況の概要を、独立行政法人情報処理推進機構のWebサイト（<https://disclosure.dx-portal.ipa.go.jp/p/dxcp/top>）にて、誰でも閲覧できるようにしています。

このWebサイトで、長野県内でDX認定を受けた企業等を検索してみると、下表のとおり8件が見つかります。

(2023年12月時点)

所在地	法人名等	従業員規模	認定適用日	業種
松本市	キッセイコムテック株式会社	～999人	2022/2/1	情報通信業
諏訪市	長野日本ソフトウェア株式会社	～299人	2022/11/1	情報通信業
須坂市	興和ゴム工業株式会社	～99人	2023/6/1	製造業
長野市	長野テクトロン株式会社	～99人	2023/7/1	製造業
松本市	株式会社ヤマサ	～99人	2023/8/1	卸売業・小売業
長野市	株式会社竹村製作所	～299人	2023/9/1	製造業
長野市	株式会社ケイケンシステム	～299人	2023/11/1	情報通信業
諏訪市	株式会社ダスキン諏訪	～99人	2023/11/1	生活関連サービス業・娯楽業

※disclosure.dx-portal.ipa.go.jpの掲載情報をもとに著者にて作表

この表からは、おおむね次のことが分かります。当初は従業員数が数百人規模の情報通信業の企業が認定を受けていましたが、情報通信業に限らず、製造業・卸売業・小売業・生活関連サービス業・娯楽業の企業へと業種も広がり、従業員規模の小さい企業でも認定を受ける企業が増えています。

検索対象を県外まで広げると、従業員数10人未満の企業等も見つかることから、従業員規模や業種、地域によらず、様々な企業等がDX認定を受けていると言えます。

そして、これら企業等のDXの取組状況は、すべて当該Webサイト内に掲載されている申請書のダウンロードリンクから閲覧できるようになっており、きっと、自社の事業規模や業種等に合った（または近い）DX事例が見つかるものと思います。

このように、自社のDXを進めるにあたって、すでに公開されている他社の事例等を参考にすることができます。

また、DX認定を受けた企業等は、高度デジタル人材訓練の対象事業者としての要件を満たし、国の助成金等の対象になる場合がありますので、このような事例を参考に貴社もDXに取り組んでみてはいかがでしょうか。

今回はDX認定のある事例をもとに、これから自社のDXに取り組む場合の進め方の一例を解説する予定です。

ご相談・お問い合わせ

☎ 026-217-1635 ✉ [dx\[at\]nice-o.or.jp](mailto:dx[at]nice-o.or.jp)

<https://dx.nice-o.or.jp/form>



デジタルによる業務の革新・改善
産業DXコーディネーターにご相談ください



角田 孝
産業DXコーディネーター

西村 元男
産業DXコーディネーター

イベント・セミナーピックアップ

■「地域エネルギー利用技術研究会」
参加者募集

水素技術に関して㈱Uホールディングスなどから講演いただきます。

- ・期日 令和6年1月26日（金）
- ・会場 シャトレゼホテル長野（長野市）
- ・定員 会場30名、オンライン50名
- ・締切 令和6年1月22日（月）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-47062/>

■「第6回環境品質モビリティ研究会」
参加者募集

エンジン車と電動車の現在と将来～世界では何が起きているのか～に関して、KPMGコンサルティング㈱からご講演いただきます。

- ・期日 令和6年2月9日（金）
- ・会場 テクノプラザおかや（岡谷市）
- ・定員 50名程度
- ・締切 令和6年1月下旬頃
- ・詳細 1月上旬にHPにて募集開始

■「第2回テクノロジーリーチナガノ商談会」
参加者募集

テクノロジーリーチナガノを活用した全国の発注企業とのビジネスマッチング商談会です。

- ・期日 令和6年2月19日（月）～3月1日（金）
- ・開催方法 対面個別商談又はオンライン商談
- ・参加負担金 5,000円
- ・締切 令和6年1月12日（金）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-46805/>

■「第2回磁気エレクトロニクス研究会」
参加者募集

高周波DC-DCコンバータ用インダクタ・トランスの低鉄損化技術等に関して、信州大学佐藤敏郎教授、水野勉教授などからご講演いただきます。

- ・期日 令和6年2月22日（木）
- ・会場 シャトレゼホテル長野（長野市）
- ・定員 30名程度
- ・締切 令和6年2月中旬頃
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「生産力強化のための生産工学系研究シーズ講演会」
参加者募集

大学研究シーズと企業のマッチングを目的に名古屋大学、名古屋工業大学の研究を講演いただきます。

- ・期日 令和6年2月22日（木）
- ・会場 テクノプラザおかや（岡谷市）
- ・定員 30名
- ・締切 令和6年2月19日（月）
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-47312/>

■「令和5年度EV分解展示実地研修会」
参加者募集

県内の自動車部品サプライヤー及び自動車産業に参入を検討している企業を対象にEVの分解展示場を視察する実地研修会です。

- ・期日 令和6年2月5日（月）
- ・会場 三洋貿易（株）瑞浪展示場
岐阜県瑞浪市釜戸町3361-3
- ・定員 80名
- ・締切 令和6年1月26日（金）

■「信州大学農Xプロジェクトセミナー」
参加者募集

信州大学の先端技術が織りなす長野県農林業の課題解決のためのセミナーです。

- ・期日 令和6年2月16日（金）
- ・会場 松本商工会館（会場開催+オンライン）
- ・締切 令和6年2月9日（金）
- ・対象 農業、食品加工業に関わる方、支援機関など
- ・詳細 <https://www.nice-o.or.jp/info/info-46285/>

■「第3回グローバルマーケティングセミナー（WEB活用編）」
参加者募集

中小製造業のための新市場開拓をテーマにWeb活用の成功事例や実施手法を紹介するセミナーです。

- ・期日 令和6年2月21日（水）
- ・会場 テクノプラザおかや（会場開催+オンライン）
- ・定員 会場30名、オンライン100名程度
- ・締切 2月20日（火）
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「ソーシャル・ビジネス創業支援金
オンライン事例報告会」
参加者募集

実際に支援金の採択を受けた方々から、事業内容や制度活用のポイント等を発表していただきます。

- ・期日 令和6年2月22日（木）
- ・開催方法 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・対象 ソーシャル・ビジネスに興味がある方
- ・締切 当日まで受付可
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始

■「国際版技術提案商談会」
参加者募集

発注企業の海外拠点に係るニーズに対して海外取引を希望される県内企業との商談会です。

- ・期日 令和6年2月下旬～3月上旬
- ・開催方法 オンライン商談
- ・発注企業 5社（中国・アセアン諸国の市場で取引を希望する日系企業）
- ・締切 令和6年2月2日（金）
- ・詳細 1月中旬にHPにて募集開始



事業承継 考えてみませんか

事業を後継者に継がせることになったが、どうやって進めたらよいだろうか？

事業承継？
相談してみるか

親族へ承継を進めたいが
株式はどう譲ればよいか？

事業承継をどうやって
進めたらよいだろうか？

従業員へ承継をしたいが、
手続きはどうすればよいか？

会社を存続したいが、
後継者がいない

後継者がおらず、事業を
第三者に譲渡することで
合意したが、手続きはど
うすればよいか？

事業承継
M&Aというものは、
自社にもできるだろうか？

後継者がいない企業を
譲り受けたい



1 国から委託を受けた**公的相談窓口**です

2 相談は**無料**です

3 相談内容は**秘密厳守**にて対応します

まずはご相談ください。

事業承継の専門家が
皆様のご相談をお受けいたします。

お問い合わせ 長野県事業承継・引継ぎ支援センター
TEL : 026-219-3825
URL : <https://shoukei.nice-o.or.jp/>



中小企業の経営改善・事業再生を支援します！

こんなお悩みありませんか？



経営状態を把握し、
経営を改善したい

ご相談

金融機関



経営環境の変化に対応し、
事業の収益力を高めたい

ご相談



資金繰りが厳しく、借入金の返済が
負担になっている

ご相談

商工会・商工会議所や税理士等



事業の継続が困難で、
新たな挑戦への支援が欲しい

長野県中小企業活性化協議会【相談窓口】

- 面接や提出資料の分析を通して経営上の問題点や具体的な課題を抽出します。
- 課題の解決に向けて適切なアドバイスを行います。

お気軽にご相談ください。

相談無料・秘密厳守
事業再生支援の専門家がご相談を承ります。

お問い合わせ 企業再生支援部
TEL : 026-227-6235 FAX : 026-227-6086 E-mail : sskyo[at]nice-o.co.jp
URL : <https://www.nice-o.or.jp/kassei/>



長野県産業振興機構
NICE

公益財団法人長野県産業振興機構

Nagano Industrial and Commercial Encouragement Organization

設立/2022年4月1日(沿革:https://www.nice-o.or.jp/about_intro/)
(公財)長野県テクノ財団と(公財)長野県中小企業振興センターが合併
基金/66億円
目的/技術革新による地域産業の高度化と産業創出を促進するとともに、県内企業の経営革新及び経営基盤の強化等を支援し、県内産業の発展と地域経済の活性化に寄与する。

〒380-0928 長野市若里1-18-1 長野県工業技術総合センター3F
TEL.026-226-8101 FAX.026-226-8838 E-mail:nice@nice-o.or.jp
URL:<https://www.nice-o.or.jp/>
業務時間/午前8時30分から午後5時15分まで
土曜日、日曜日、年末年始(12月29日から1月3日)を除く。



- JR長野駅東口より徒歩25分、車で10分
- JR長野駅東口より長野電鉄バス日赤ゆき、北市または信大工学部前バス停より徒歩10分

ご相談窓口&お問い合わせ先

総務企画本部

総務管理部 TEL.026-226-8101
企画連携部 TEL.026-227-5803

新産業創出支援本部

次世代産業部 TEL.026-217-1634
・信州医療機器事業化開発センター
・航空機産業支援センター
飯田サテライト TEL.0265-49-8047
グリーンイノベーション推進部 TEL.026-217-1634
(グリーンイノベーションセンター)
ITバレー推進部 TEL.026-217-1635

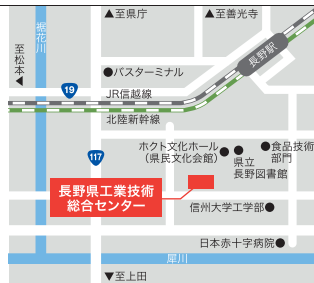
経営支援本部

経営支援部 TEL.026-227-5028
長野県よろず支援拠点 TEL.026-227-5875
マーケティング支援部 TEL.026-227-5013
・消費財チーム TEL.026-235-7246
企業再生支援部 TEL.026-227-6235
(長野県中小企業活性化協議会)
事業承継・引継ぎ支援部 TEL.026-219-3825
(長野県事業承継・引継ぎ支援センター)

地域センター

長野センター (NICE長野)

〒380-0928
長野市若里1-18-1
長野県工業技術総合センター3F
TEL.026-225-6650
FAX.026-225-6711



- JR長野駅東口より徒歩25分、車で10分
- JR長野駅東口より長野電鉄バス日赤ゆき、北市または信大工学部前バス停より徒歩10分

諏訪センター (NICE諏訪)

〒392-8601
諏訪市上川1-1644-10
諏訪合同庁舎内
TEL.0266-53-6000
(内線2663、2664)
FAX.0266-57-0281



- JR上諏訪駅より徒歩25分、車で10分
- 中央自動車道諏訪ICより車で10分

上田センター (NICE上田)

〒386-8555
上田市材木町1-2-6
上田合同庁舎内
TEL.0268-23-6788
FAX.0268-23-6673



- しなの鉄道上田駅お城口より徒歩20分、車で5分
- 上信越自動車道上田ICより車で10分

伊那センター (NICE伊那)

〒399-4501
伊那市西箕輪2415-6
伊那技術形成センター内
TEL.0265-76-5668
FAX.0265-73-9023



- 伊那インター工業団地北端
- 中央自動車道伊那ICより車で8分
- JR伊那市駅より車で15分

松本センター (NICE松本)

〒390-0852
松本市大字島立1020
松本合同庁舎内
TEL.0263-40-1780
FAX.0263-47-3380



- JR松本駅より徒歩30分、車で10分
- 長野自動車道松本ICより車で2分